

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873500086		
法人名	社会福祉法人 愛孝会		
事業所名	グループホーム 福祉の森 聖孝園 ユニット名(新館)		
所在地	319-1305 日立市十王町高原333番地6		
自己評価作成日	令和 5 年 5 月 31 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート		
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階		
訪問調査日	令和5年7月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季の風情が感じられる自然豊かな環境のなか、入居者様一人ひとりのできることや要望にできるだけ寄り添い、安心して地域の一人として生活できるように支援しています。コロナウイルス感染症予防のため外出や地域の方々や家族懇談会・親睦会での家族との交流などできませんでしたが、大型バスハイクやテイクアウトの食事会、施設内での多彩な行事で笑顔あふれる日々を過ごしています。ラジオ体操・リハビリ体操や、広い敷地の散歩、屋内運動会などで体力低下を防ぎ、脳トレ、レクリエーションで活気ある毎日を楽しんでいます。今までの生活力をいかして、洗濯たたみや食器洗い・拭き、テーブル拭き、床の掃除などできることを継続しています。入居者様の活動内容や生活の様子などを毎月の「グループホーム便り」や、近況報告でご家族様に報告し、要望をうかがい支援につなげています。今年度は、感染対策して外出やボランティアなど地域との交流を図り地域に根ざした活動に努めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点	
-------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人格の尊厳を守り、健康で楽しく生きがいのある生活が送れるように努め、住み慣れた地域で、地域の一員としての生活を可能な限り継続できる様に支援します」の運営理念のもと、全職員が熟知してグループホーム会議や日々の業務の中で常に話し合い理念に沿ったより良い介護の提供に心がけている。職員一人ひとりが名札裏に理念を携帯するほか、事務室や玄関入り口、ホールなどに掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域住民で構成されている「高原交友会」やボランティア団体との交流は、新型コロナウイルス感染予防のため取りやめているが、近隣農園のご協力を受け果樹採取やコケ玉作りなど行っている。盆踊りや保育園・小学校の運動会などの地域行事への参加はとりやめているが、感染対策をしてドライブや散歩に出かけている。地域の一員としての奉仕作業(草刈)は継続している。地域民生委員や地区の役員と運営推進会議を通して情報交換を行っている。定期的に移動図書館を利用している。また徘徊などで入居者様をみかけたときには連絡をもらえるよう日頃から関りをもっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の地区民生委員や地区知見者を通じて、認知症の理解や地域の方々の心配事などをうかがっている。併設している地域包括支援センターが専門的な知識で支援活動している情報を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からサービスの実際、取り組みについての報告を書面で行い、家族代表、市職員、知見者、民生委員のご意見・助言をいただきサービスの向上ができるよう努めている。年1回実施している家族アンケートのご意見・要望を頂き、その結果も報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業を行っていくうえで生じる課題などあれば気軽に問合せ、相談している。運営推進会議における施設の実情やケアサービスについてのご意見をいただいている。また生活保護についての相談やご指導も受けている。職員向けの口腔ケア実技指導を新型コロナウイルス感染予防のため中止していたが、令和5年度から再開することができるため指導を受けて入居者様の生活の質の向上に努めていきたい。施設長はあんしん・安全ネットワーク委員会のメンバーとして民生委員などとの関りを密にして、市・他事業者との交流を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修、グループホーム会議で定期的に身体拘束に関する勉強会や研修を行っており、全職員が身体拘束による入居者様の受ける身体的、精神的弊害を理解している。グループホーム会議で定期的に入居者様の状態を確認し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。常に入居者様の行動を制限することのないよう歩行、移動等の見守り、声掛けには注意を払っている。出入口には鍵をかけず生活しているが、夜間に限り一般家庭と同様安全のため正面玄関と裏ロアのみ鍵をかけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて「高齢者虐待防止」に関する勉強会を行い、その意義を学んでいる。施設内で「身体拘束・高齢者虐待防止委員会」を設置して定期的に調査検討している。グループホーム会議においても会議内容を報告して共有している。併設の地域包括支援センターは、日立市高齢者権利擁護推進会議に参加しており、適宜必要な情報を受けることができる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は必要となる対象者はいない。今後必要となる対象者が入居した際に速やかに活用していけるよう、グループホーム会議で「日常生活自立支援事業」や「成年後見制度」について勉強会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、入居者様・ご家族には口頭・書面両方で十分な説明を行い、納得いただいた上で契約を取り交わしている。グループホーム内での生活をご理解いただけるように十分な時間をかけるよう配慮している。利用料は詳細に示してある料金表を提示して説明している。個人情報保護や身体拘束をしないケアなどご理解をいただける説明をしている。退居の際は契約に基づき介護支援専門員・主治医も含め退居先への支援や、再入居の支援の説明している。介護保険法の改定がある場合は速やかに報告し、同意を受けることも説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口を明示説明し、グループホーム内にご意見箱を設置している。ご家族様・入居者様に毎月お渡ししている「お便り」にもご意見・要望欄を設けている。また第三者委員を明記したポスターを展示している。運営推進会議に参加している家族代表や家族アンケートから頂いたご意見・要望は、できることはすぐに対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回行っているグループホーム会議では、管理者も参加し職員の意見を取り上げ協議している。各職員から環境面や業務の改善点等の意見を協議し、業務の見直しに努めている。気づきメモなど必要に応じてミーティングを随時行い、接遇や業務・環境改善に生かしている。意見や要望等など出やすい雰囲気作りに配慮し発言の機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員に対し資格取得に向けて勤務調整しながら努めている。勤務年数や日々の勤務実績などに応じて昇給することにより、本人のやる気を引き出す配慮をしている。新型コロナウイルス感染予防のため外部の研修会への参加は控えている。毎年年末に一年の反省と翌年の抱負を掲げ、職員の気づき・やる気を引き出し働きやすい職場となるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内において、内部研修の年間計画を立て月1回の職員会議で実施している。またグループホーム会議では管理者は職員への助言や指導している。職員の援助技術の向上と実践を重視した勉強会や研修をしたり、気づきメモを活用して職員の気づく力、見極める力の向上、習得に努め介護専門員としてのスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者との交流は新型コロナウイルス感染予防のため減少しているが、電話などでこまめに情報交換や交流は行っている。同法人の他事業所間では情報の交換をしてサービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は本人、ご家族からこれまでの生活状況や望む暮らし・要望などをよく聴き安心した生活が送れるようケアプランを作成している。これまでの生活状況もよく確認するようにしている。入所前に居宅サービスを利用していた方であれば、担当の介護支援専門員から情報提供を受けるようにしている。また、グループホームの生活に不安や心配事が生じないようによく説明し、安心、納得してもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や相談時には、ご家族などの求めていることや困りごとをよく聴くようにしている。ご家族を支援している介護支援専門員や時には併設の地域包括支援センターの職員からも聴くようにしている。また、入居契約時には、意向をよく聴き、ご家族が抱えている不安等があれば、一緒に考え協力できるよう努めている。グループホームの運営方針や基本理念、日々の過ごし方や生活をつたえ、内容を理解したうえで利用いただけるようにも務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、本人やご家族の現状、要望などを介護支援専門員や担当職員がよく話を聴き、今どんなサービスが必要なのか多面的にとらえたうえで、その方にとって最善の支援を提案し、必要な助言をしている。時には同法人に併設している地域包括支援センターと協働している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を第1に考え、出来る事は行っていたり、達成できたときは共に喜び全職員が馴染みの関係を築いている。人生の先輩として教えていただくことも多く、励ましの言葉を職員にかけてくれることもある。支援しているという意識を持たず謙虚な気持ちで協働している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が定期受診の付き添いをする際は、本人の情報を口頭や書面にて伝えたり、家族が付き添わない場合は受診後の報告をして常に情報の共有化に努めている。入居者様個々の近況報告や気づいたこと、行事予定など日頃の暮らしぶりを電話やグループホーム便りで報告している。遠方で窓越し面会ができないご家族とは電話や手紙で思いがつながるよう努めている。時には入居者様の作品をご家族へお送りしてご覧いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活環境・交友関係が入居後に大きく変わることなく継続的な交流が持てるよう、ご家族などに理解と協力を求めている。入居者様のかかりつけ医の受診は継続して支援しているが、外泊はご家族にご協力をお願いして取りやめている。制限のある窓越し面会でも楽しみにしてもらえよう配慮している。近隣への散策やドライブなど馴染みの場所へは感染対応して外出したり、入居者様同士の周知の場所や馴染みの場所・人の話題で会話が弾み地域との関係が途切れないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーション等では、内容によっては入居者様全員が協力して行えるよう支援したり、気の合う者同士の小グループ分けでかわりを深められるよう支援している。気の合う者同士で会話が弾むよう、時にはトラブル回避、悪化防止のため座席の配置換えを行う場合もある。職員は、状況や必要に応じて入居者様の関係が良好に保てるよう、さりげなくフォローしたり、共同生活が円滑に運ばれるよう働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などで退居された方など、経過を見守り今後の支援相談などアドバイスをしている。他サービス利用が必要な場合は相談を受けたりアドバイスするなどして支援している。退院後の再入居への支援も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族の意向・要望などをそのつど確認してフェイスシートに記載しサービス計画書を立案している。自分の思いを伝えづらいうちは日々の関りの中で行動や表情から本人の思いをくみ取って、一人ひとりに合った暮らしができるよう会議等で検討し、ケアに反映できるように努めている。気づきメモに抽出された個別情報などを参考にし、モニタリングしアセスメントの視点を広げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様やご家族から生活歴などの情報を聴き、フェイスシートやアセスメントシートに記載し、その情報をもとにその人らしい暮らし方が継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の気づきを活用し、その人らしさを尊重した個別ケアの提供ができるよう努めている。ケアを提供するために、その人の生活歴、性格、嗜好、思い、できること、分かることなど多くの情報を集めてアセスメントし、会議などで話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族にご意見や要望、生活に対する意向等を聞いたうえで、必要に応じて医師や管理栄養士の助言をもらい、カンファレンスを行い、気づきメモ、事故報告の対策や意見・アイデア生かし実情にあった介護計画を作成している。3ヶ月ごとに定期的に現在の介護計画をモニタリングして生活状況をみながら、より現状に即したサービスが提供できるよう努めている。入居者様の状況変化がある時は随時に本人、ご家族、必要な関係者と話し合い、認定調査票、主治医意見書なども参考にしてカンファレンスを行ってプランの見直し、変更をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルが用意しており、日々の暮らしの様子や、本人の言葉、健康状態(食事、水分、排泄状況、血圧、体温、Spo2などを測定し記録して実践や介護計画の見直しに生かしている。情報が個別ファイルに埋もれることのないよう、業務日誌に特記し常に情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に応じて病院受診(定期受診も含む)の支援、希望者の歯科往診の支援を行っている。 職員は労力を惜しまず、入居者の望みや必要と思われる対応を常に考え支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防のため地域ボランティアや地域の方々との交流は行っていないが、移動図書館で書物に触れたり近隣の公園散歩、農園の果樹採取、大型バスで市内観光して馴染の景色を楽しんでいる。防災訓練では地元消防団員の協力で消火器訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、ご家族に入居前からのかかりつけ医の継続をお願いしている。かかりつけ医を大切に、ご家族、医療機関と連携を図っている。かかりつけ医へ受診する際、本人の状況など必要な情報提供を行い、医師からの助言や支援について留意することなどは職員間で共有している。かかりつけ医以外に受診の際は、これまでの経緯や本人、ご家族の意向、または専門性などを勘案し、適切な医療が受けられるよう配慮している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状況を把握し、職員間で情報は共有している。施設内(特養)の看護師も含め気軽に相談でき、いつでも連絡可能な体制を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際には、サマリー様式で普段の生活の様子や留意する事項の情報を提供し、なるべく対応を変化させないように注意している。ご家族や医療機関と連携を図りながら、入院中の状況把握、情報を共有し早期退院に向け医療機関の相談員や主治医、ご家族と話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、重度や終末期の対象者はいなく、見取りも行っていない。契約時本人、ご家族へは、十分な説明をしてご理解をいただいている。かかりつけ医と連携を図りながら本人の病状把握に努め、身体状況に変化見られる際は、速やかにかかりつけ医への受診、急変時は協力病院への受診や救急搬送することも説明し、同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が普通救急救命講習の修了書を所有し定期的に更新している。毎月の防災訓練、勉強会などで技術の向上や維持に努めている。緊急時対応マニュアルを作成し、緊急時対応の連絡方法なども周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体として年2回(うち1回は夜間想定)の火災訓練、年1回の地震、土砂災害、暴風竜巻訓練、年3回の行方不明者捜索の危機管理訓練、年2回の総合火災訓練(うち1回は夜間想定)で消火器訓練も実施した。定期的な訓練を実施することで非常時に備えている。火災発生時の自動通報先の1つに一番近い地元消防団員宅を指定している。またグループホーム独自に「地震」の訓練を行い安全に避難でき、入居者様・職員全員で防災意識を高めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営理念「人格の尊厳を守り」を意識しながらトイレや入浴など、さりげない言葉かけや対応をしている。プライバシーや個人情報保護に関する研修を職員会議やグループホーム会議で定期的に行っている。接遇に関する内容をグループホーム会議で議題に挙げて常に確認しあっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の場面ごとに、本人に分かりやすく言葉かけし、本人の声を聴き意思を確認したうえで行動に移している。また、会話能力、意思決定能力不足の入居者様に対しては、入居者様のしぐさや表情を見逃さず言葉かけし、できる限り自己決定できるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおよその流れはあるが、起床、就寝時間、食事にかかる時間など、本人のペースで行えるよう対応している。何事も入居者様の声に耳を傾け、職員は申し送りの中でその日の様子、個々の意向にそった支援ができるよう確認、記録をして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の個性を大切にしながら衣類の調整、整容をさりげなく支援している。起床時の衣類選びは基本、本人に選んでもらうが、困難な入居者様へは好みのものをいくつか用意し選択できるよう支援している。理美容は地域の美容院が月2回来園して希望者は予約利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好にあった食事の提供にこころがけている。誕生会やおやつ作りなどの行事を一緒に考えている。配膳準備や後片付けなどは個々の力をいかしながら、職員と一緒にやっている。外食ができないため本人の嗜好にあったテイクアウトした昼食を楽しめるよう支援している。おやつ作りやそば打ちなど一緒につくる楽しみと季節に合わせたものを味わって頂けるよう支援もしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス・カロリーについては、管理栄養士に指示を受けている。カロリー制限者は医師の指示を受け対応している。食事形態は、常食、ひとロキザミ、キザミ食と分け、身体状況に合わせた調理法で提供している。摂取量・水分量は記録し把握している。嗜好や体調に基づき個別にメニューの変更をするなど配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ブラッシング(歯・歯間・舌)し、うがいの順番で口腔ケアを行っている。自力で行える方は促し、見守り、仕上げ磨きのサポートを行い、自力で行えない方には、一緒に行い義歯の洗浄まで丁寧にして、口腔内を衛生的に保てるよう支援している。義歯は夕食後預かり洗浄剤を使用して清潔にしている。毎食前、外出後にうがいや手洗いを促し、口腔内の清潔、感染予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表、個人記録に本人の排泄状況を記録し、昼夜個人の排泄リズムにあわせてトイレの声掛けや見守りを行っている。必要に応じてポータブルトイレの設置をして個々の自立にむけた支援を行っている。入居前は紙パンツを使用していた入居者様のご家族から、布パンツにしてほしいと要望があり排泄状況観察後布パンツに変更して生活している。今後も紙パンツやパッドの使い分けをして排泄機能の低下を予防しながら自立に向けて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面では、毎朝乳製品の提供や繊維質の多い食材を取り入れている。運動面では、毎日の体操や天気の良い日には散歩をするなど、日常的に取り組み自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を実施している。個々のペースにあわせて、気の合う者同士ゆっくりと入って頂けるよう支援している。毎回入浴剤を入れリラックスして入浴できるよう配慮している。ゆずや菖蒲など季節を味わっていただいている。入浴日以外でも希望される方の入浴やシャワー浴も支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中や夜間の様子を確認、記録し職員間で申し送り、一人ひとりの就寝時間、睡眠状態を把握している。昼寝は居室で休む入居者様と、ホールで皆と一緒にテレビを観たり趣味を楽しんだりして時間を過ごす入居者様がいて、自由に個々に合わせた環境で気持ちよく休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイル内に、薬剤の説明書(副作用、用法容量など)を補完し、全職員が内容を理解している。薬の変更に関しては個人ファイル、業務日誌に記入して職員が周知できるよう努めている。状況の変化を見逃さず、必要に応じて主治医、ご家族に相談し、適切な見直しができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、ご家族から生活歴などの情報を収集しながら、草取り等外仕事の得意な方、家事が行える方にはお願ひし、暮らしの中で楽しみながら役割を持てるよう支援している。縫物や塗り絵、ジグソーパズル、読書など趣味を生かして楽しみごとへの支援もを行っている。プランターの花への水やりなど戸外での楽しみ事も支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防のため外出の機会は減少しているが、大型バスでのドライブや近隣への散歩などを行っている。天気の良い日は園内の散歩を楽しんでいる。施設内でできる運動会や駄菓子屋の雰囲気を楽しむながら買い物を楽しむなど支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様、ご家族の希望により、小口現金にて管理している。新型コロナウイルス感染対応で買い物には出掛けられないが、施設内での駄菓子屋の買い物は本人の財布のお金を使って頂くよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりや電話が気軽にできるよう配慮している。入居者様が家族のことが気になり不安な時は、施設の電話でご家族の声を聴き話ができるよう支援している。また、遠方で面会に来られないご家族と電話で会話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きなガラス窓から自然の光が入るように工夫して、カーテンや夏にはよはずを利用して一定の温度を保つよう調整している。テレビやカラオケの音は職員が随時調整している。家具や小物も慣れ親しんだ温かみのあるものに揃えて家庭的な雰囲気作りをしている。玄関や室内には季節を感じられるよう花や植物を飾り、入居者が制作した作品を展示して四季を感じられる配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、食堂テーブルのほかに、ホールや廊下などにソファや椅子を多く配置し、一人でゆっくりしたい方、気の合った少人数で談笑する方々など、思いおもいの時間を過ごせる空間を数か所確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳敷きとフローリングの部屋があり、たんすや洗面台、エアコン、カーテンが備え付けられている。契約の際、入居者様、ご家族へ馴染の深い物、使い慣れた物の利用をお願いしている。整理ダンス、テレビ、趣味の物やアルバムなど持ちこんでいることも多い。自宅で生活されていた環境に少しでも近づけられ、入居者様それぞれの生活スタイルにあわせて居心地よく安心して過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物の置き場所が見やすく分かるように明示し配慮している。和室、洋室を設けておりベッド、布団の利用を本人、ご家族の意向をもとに提供している。入居者様の現在の状況に合わせてポータブルトイレを設置している方もいる。トイレや居室の表示は個々に合わせ大きく目立つ物や、さりげな物を工夫し対応している。		